

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	マイスター部会会議(第1回)
開催日時	平成29年9月27日(月) 17:00~19:00(2h)
場所	専門学校日本工科大学校 会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、嶋田 聡、高嶋靖生、高原一岐、長谷川武義、森本徹之、吉川隆治(計7名) ②事務局 ・古河邦彦(計1名) (参加者合計8名)
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足) 【会議目的】 ・第1回会議内容と本年度終了した設計事務所における企業内実習の学生と企業のアンケート結果内容をもとに、今後の企業内実習の方向性を確認することを目的とした会議を開催した。 【次第】 日時:平成29年9月27日(水)17:00~19:00 会場:専門学校日本工科大学校 会議室 1.開 会 2.議 事 (1)左官実習の実施報告及び今後の実習のあり方について (2)学生及び企業アンケートの内容について (3)大工(マイスター)実習の計画について 3.事務連絡 (1)次回会議日程 1月23日(月) 17:00~19:00 (2)その他 4.閉 会 <配布資料> ・議事次第 ・アンケート(案)

議題等	<p>【内容】</p> <p>以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。</p> <p>1. 開 会…</p> <p>事業責任者の校長片山から、左官実習の実施状況報告、学生向けのマイスター部会としてのアンケート、今後の企業内実習、次回の会議等についてご意見を願いたい。との開催の言葉で第1回マイスター部会会議が開催された。</p> <p>2. 議 事…</p> <p>(1)左官実習の実施報告及び今後の実習のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none">・1～2年生ともに良かった。女性が参加という事で、現場ではより緊張感があったが、特に大きな問題もなく終わった。 <p>企業内実習先として上田左官へ5日間、職人さんとコンタクトを取りながら行い、次に真改工業へお寺の杭の壁塗り、中塗り、上塗りの6日間実施した。企業内実習中の期間に学生の取組み姿勢の確認のため訪問したが、1年、2年共に良い企業内実習であったと感じている。</p> <p>【企業内実習の報告(本事業参加委員の企業内実習報告)】</p> <ul style="list-style-type: none">・受け入れ先の真改工業の高嶋委員より作業現場の説明が以下のように行われた。 <p>→私自身が学生に見本を見せて作業をさせた。学生が作業している間、学生のチェックをしながら他の仕事をしていた。</p> <p>学生は職人より、作業時間が5倍以上の時間が掛かる。職人より時間が掛かる分、材料の状態が悪くなることを意識させながら実施したが、経験不足から理解できていないと思う。</p> <p>学校への要望として、学校教育では四角の壁を作り、壁塗りの教育に割く時間をもっと取入れてほしい。</p> <p>その他、挨拶、態度、服装の乱れ、周りを汚さない、清掃等を注意しながら実施した。完ぺきではないが、ほぼ学生はできていた。</p> <p>県営住宅RCにモルタル塗りの手伝いを1日、解体・回収工事の体験もさせた。RCが主力であるため、経験させた。</p> <p>職人からの声としては、参加した学生は目を離さなければ塗ることができるレベルである。学校教育が活きているが、少しでも目を離すと仕事ができない状況となる。</p> <p>お寺の仕事は、職人のいう事を聞きながら興味を持って取り組んでいた。受け入れは職人1人に2人が限界である。</p> <p>学生に可能な限り教えるといった責任感を持った職人でないと預けない方が良く、何も分からないところに預けるよりは、事情を分かる人に預けた方が見学にならずに経験できるようになると思う。</p> <p>新入社員が来た場合には、座学、現場実習といったある程度の知識を持った上で</p>
-----	--

議題等

現場に出すという流れが見えた。

また、6日間の企業内実習の期間は短かった。あと1週間の期間があればもっと中身の濃い経験ができると思うが、今回のことを考えると1年生はとても身になる経験ができたと思う。

→基本的には、企業内実習の受け入れは職人ではなく学生なので社員として来ていることではない。

学生に何を教えるのかの判断が会社・事務所毎に異なるため教える基準を全体的なのか個々の細かい部分になるのかが、事業所単位になる。

したがって、ある程度教えやすい基準(マニュアル)を作ることが必要である。

一方、職人によって教え方が違うので、学生の頃に色々な職人のやり方を見て経験することは良いと思う。

その他、学校では数多くの壁を塗る実習を学生にさせる時間を設けてほしいと思う。

学生にとっては勉強の場であると同時に、企業にとっては信用と金銭が発生する仕事として請け負っているため、企業内実習を超えているとは思いますが、学生に対してしっかりと言い伝えるべき事は行う姿勢で実施した。

【受け入れ企業準備について】

•企業内実習の協力お願いしても受け入れが難しいという返答が多いが、どのような対応をしたら良いのか意見を聞きたい。

→受注した現場によっては、企業内実習を受け入れるなどの事前に報告などの手続きの準備が必要であるため、その準備期間を考えなければならない。

→現場を見て交渉しても受け入れてくれない。現場によっては女性に配慮した現場の準備ができていないところもある(行政との調整も含まれる)。

→この部分は今後の課題として挙げられる。

→準備ができるように、もっと早い段階で連絡をすることが今後必要である。

→1～2週間の企業内実習で何をさせることができるのか。

→受け入れ企業側の授業の一環であるのに職人並みの何をさせるのかという考え方を無くすこと、教育の一環として認識してもらうことが必要である。

→一定期間一緒に過ごすことによって人間関係ができることがプラスである。学生に向けて人間関係の構築の場としての発信が必要である。

•企業内実習の期間についてはどうか。

→1週間は短い。

•企業内実習に参加した学生の意見はどうか。

→まだ、密に確認ができていないが、現場が厳しくきついということが分かったとことである。

•企業の受け入れ側が学生に対して何を残していくかという指導の体制が必要と感ずる。

議題等

→学校側から企業側に対してのマニュアルがあれば提示してほしい。「現場で一番重要な部分」、「何をさせたら良いのか」といった今回を通した上で今後に向けたものが良いと思う。

→学校からの考えがあれば受け入れ企業側は、何をすれば良いのかが明確となり、受け入れ易いと思う。

(2)学生及び企業アンケートの内容について説明が行われた(配布資料:アンケート(案)参照)。

・本日いただいた意見のように、受け入れ企業と学生の気持ちなどが見える内容を心掛けて作成したとの言葉から「学生用」のアンケート項目についての内容の説明が行われてマイスター用に改善する意見が以下の通り発言された。

・(6)、(7)の項目は必要なのか。

→例えば服装について、現場で言われるのと学校で言うのとでは重みが違う。学生は職人達に触発されるので、この項目は外せないものである。

→1～2週間の期間では緊張で終わってしまう期間であるから基本的には参加者は全員きちんとするが、削除しなくても良いと思う。

→現場の職人が学生に対する意識を変えることが必要である。

【学生用の変更点】

・特になし

続いて「企業用」と「学生用」のアンケート項目についての内容の説明が行われてマイスター用に改善する意見が以下の通り発言された。

・3-(1)-④「自分は仕事ができないことを実感したこと」を「自分の技術力不足を実感したこと」に変更した方が良いと思う。

→学生は基本的には技術力はない。

→それを分かっている上で、文章の表現方法を変えた方が良いと思う。

→もともと技能が無いので「知識」が無いという認識として変更した方が良い。

→学生の自宅住所はどうか。

→個人情報管理によるが、受け入れ企業としては、何か問題があった場合どこに連絡を入れるのか。

→学生には事故などで参加できない場合の連絡先を教えるべきであった。

→自由な部分は必要であるが、ルール違反さえしなければ良いと思う。安全面においては大事にして欲しい。

→学校と現場では学生の顔付きが違う。心構えが違う。高校生と留学生とでは専門学校生は意識が違う。

・2-(2)-②の「技能の不足」とあるが、もともと技能はないので「知識の不足」という方向が良いと思う。学校で教える以外の事も多いと思う。

→学生自身が憶える意識を持つことを認識させる。

【企業用の変更点】

議題等

- ・2-(2)-②の「技能」→「知識」とする。
- ・3-(1)-①は削除、④「自分の技術力不足を実感したこと」とする。

(3)大工(マイスター)実習の計画について

- ・授業中に毎週1～2回程度実施する調整を検討していた。本日欠席であるが井上委員の自社物件の現場に4人受け入れていただき企業実習する。今後、その内容を詰めていく。

卒業生からの協力で、播磨町で受け入れ先企業が見つかって週1回2人を来週の木曜日から朝7時集合で毎週(木)に企業実習を行う。

- ・他は無いのか。
 - 個人が多く、仕事の内容が違うので、なかなか受け入れは難しい状況である。
 - 今年はたまたま受け入れる先が見つかった。
 - ボード貼り等がほとんどの仕事になる現場が多い。
 - 大工の仕事はできないと思う。
- ・今回実施した企業内実習の期間で回数を増やす方向も検討する余地はあると思う。
- ・職人になることは、例えば美容師と同じ世界でもある。資格を持っていても自分の魅力と向上意識が大事な部分である。
 - 来週からこの計画で行う。企業内実習は2月1日まで行う。

<その他意見>

- ・実習＝社員として技術を教える方向で進めているが、見学でも良いと思う。

見て憶えるのもインターンシップではないか。現在の現場では、入社することを前提として受け入れるということが前提となっている。

しかし、企業内実習をした後はどこも追跡調査をしていないのが現状であり、職人が育つ環境ではない。

ある程度の線引きをしないとイケない。仕事と学生指導とは考え方が違う。見習い生として企業内実習に参加していることを認識させる必要がある。

全国展開においては、各地域により考え方や進む方向性があるため、それを調整しないと難しい。

 - 学生を前面に出すのであれば、大工・左官分野へ入学している学生は、職人になりたいと思い学校に入学しているので、その在校期間にある程度技術の習得をさせて就職させることが必要である。

企業内実習のやり方は様々ある。授業の座学の延長という考え方であれば1～2日で見学させれば良いが、楽しくもない経験をさせることは続かない。

 - そもそも、専門学校卒業後の職人と親から受け継いで職人になるのとスタートラインが違う。

町場と野丁場では仕事の種類が違うので教え方が違うが、職人が高齢化してきていることもあり、親方の意識が変わって来始めている段階である。

議題等

→高齢の職人は驚くほど多い、若い人を入れていくという社長などの意識が見えてきたこと、壁塗りの場数を多くするという課題が外(現場)に出ることで見えてきた。

→RCについては学校ではできないため、学校外で経験させることが必要である。即戦力に近い人材を育成する。今回の企業内実習をしてきて学校の方向性は間違っていないと思った。

3. 事務連絡・・・

(1) 次回会議日程

・今後の会議形式としては、企業内実習の風景を1時間程度視察した上でご意見をいただきたいと考えている。

→実際に企業内実習風景を見ることは良いと思う。

→現場の進捗状況による日程で開催すると思うので、仕事の都合により行けない場合は了承いただきたい。

→本来は、委員の皆様のご都合を聞き、会議日程の調整を行っていますが、次回は、現場の進捗状況を一番とし、日程の調整を皆様に行わないで事務局より会議開催日程をご連絡すると思いますので、その際にはご理解願います。

【会議風景】



本日はお忙しい中ありがとうございました。引き続き、よろしく願いいたします。との言葉で会議散会となった。

会議議事録

事業名	平成29年度「専修学校による地域産業中核の人材養成事業」 建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業
代表校	専門学校日本工科大学校
会議名	マイスター部会会議(第2回)
開催日時	平成29年12月21日(木) 14:00~17:00(2h)
場 所	赤とんぼ文化ホール 会議室
出席者	<p>①委 員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片山俊行、井上雅仁、高原一岐、長谷川武義、森本徹之、吉川隆治(計6名) <p>②事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古河邦彦(計1名) <p>(参加者合計7名)</p>
議題等	<p>会議の目的、次第、内容等を記載(必要に応じて別紙等で補足)</p> <p>【会議目的】</p> <p>・実際の企業内実習を委員へ視察してもらい、意見を述べてもらうとともに、第1回会議内容の報告の確認とアンケート結果内容をもとに、今後の企業内実習の方向性を確認することを目的とした会議を開催した。</p> <p>【次第】</p> <p>日時:平成29年12月21日(木)14:00~17:00 会場:赤とんぼ文化ホール 会議室</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.開 会 2.企業内実習現場の視察 3.議 事 <ol style="list-style-type: none"> (1)第1回会議の報告 (2)企業内実習のあり方(実習現場を視察して) (3)学生アンケート結果(左官実習) 4.事務連絡 5.閉 会 <p><配布資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・議事次第 ・第1回マイスター部会会議要旨 ・企業内実習アンケート(学生用)

議題等

【内容】

以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。

1. 開 会・・・

- ・実際の企業内実習(古民家再生の現場)を委員へ視察してもらい、意見を述べてもらうとともに、第1回会議内容の報告の確認とアンケート結果内容をもとに、今後の企業内実習の方向性を確認することを目的とした会議を開催した。

2. 企業内実習現場の視察(14:00～14:40)・・・

【企業内実習視察風景:外観】



【企業内実習視察風景:現場実習①】



議題等

【企業内実習視察風景:現場実習②】



【企業内実習視察風景:現場実習③】



3. 議 事...

(1) 第1回会議の報告

第1回会議内容の以下の確認が行われた(配布資料 第1回マイスター部会会議要旨)。

<企業内実習実施状況>

- ・受け入れ先企業:上田左官、真改工業。期間:9月4日~9月9日の短期集中型。参加者:本校学生3人。内容:上田左官 マンション現場で壁の補修等/真改工業 お寺の杭の壁塗り、中塗り、上塗り 等。

(成果)

- ・塗りつけの時間の速さなど、初認の技術のすごさに感動した。
- ・左官の仕事の難しさを感じた。
- ・自分の改めるべき点があった。 等

(課題)

- ・日程調整に時間が掛かり、実習の日程を早く学生に知らせることができなかった。

<p>議題等</p>	<p>等</p> <p>(2)企業内実習のあり方(実習現場を視察して)</p> <p>[受け入れ企業より説明]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約430年前のヒガシマル醤油の発祥の建物「菊屋」を町の景観を損なうことなく地域貢献のために実施している。 ・参加の学生4名は活躍してもらっている。一人一脚ずつ町の人達の休憩場所の椅子を作ってもらった。 ・空間の掃除や屋根といった職人ならではの空間を楽しむことを行っている。伝統的な方法で古色塗りをしてもらっている。 <p>教えるのは御校の卒業生にしてもらい、道具の使い方や手入れを教えている。充実した内容となっていると思う。</p> <p><以下、意見交換が行われた></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した学生は、一歩進んで新しい道具や技術を欲してきている卒業生の姿を見て意識が変わった。 ・道具の大切さや掃除一つにしても意味をしっかりと参加の学生に伝えてもらっている。学生も現場に出て分かってきている。 ・教えている卒業生は、実際に学生の際に体験して教えて欲しかったところを参加している学生に教えている。 <p>学校のカリキュラムに抜けていることを教えていることが良かったと思う。カリキュラムの見直しのヒントにもなる。</p> <p>→企業内実習の内容は、先輩が教えているその姿を見ることが勉強となっているので特に問題は無いと思うが1年生は難しいと思う。</p> <p>今回のように大きな現場であれば何とかなるが、小さな現場は難しいと思った。2年生に入ってからが良いと思う。</p> <p>現場に入って何をしたら良いのかが分からなさすぎるため、自分から率先した行動はできないと思う。</p> <p>→学生の動きを見ると1年生ではやはり難しい。2年生になって就職という位置付けになると興味が変わっていくと思う。</p> <p>大工仕事の実際の仕事は色々行わなければならない。足場の組み方を教えてもらっているのは改めて良いことと思った。</p> <p>→丸太足場は学校では組まない。学校ではできない。</p> <p>→学校でもできないことは無いと思う。片付けの際には丸太で作っても崩せばよいだけのことである。</p> <p>→丸太足場は番線で締めるが、できる大事なことのひとつである。</p> <p>→古民家や坪庭、リフォームとなると簡易的な足場を丸太で作らなければならなくなる。実際に長い間仕事をすると絶対出てくる。</p> <p>段階的に括り方からはじめ、自分で考えてやらせる。他人が括ったところに他人が</p>
------------	---

議題等

登るのは安全が絡むということを知ってもらう。

→今回、屋根に登る際の丸太足場は学生が作った。

→手前は学生が考えてある程度丸太足場を作らせてもらった。

→作る丸太足場が、作業のし易い高さである、頑丈であるべきであるということを身に付けてほしいし、感じてほしい。

→丸太で足場を作ることを今回の企業内実習で学生ははじめて知ったと思う。このような学べる場を作ることは意義のあることと思う。学生をローテーションしても良いとは思いますが。

→あまり替わり過ぎると受け入れる側が困るので、そこは考える必要がある。

→今後を見ると新しい家が増える中で、対お客に対してコロコロ替えるのは良くないと思う。

・実習現場への移動手段を考えなければならない。

→大工と左官は道具が必要で、簡単に電車で通うように言えない。通常の企業内実習とは異なる。

→鉄筋コンクリートのマンションの実習を見ているが、道具もスマートに収まり、学生は作業服を着て安全靴とヘルメットを持って行けば良く、授業としては運用し易い企業内実習である。

一方、大工や左官となると安全帯、ヘルメット、鋸などといったものとなりそれなりの多くの荷物となるため、多くの学生を送り出すことが難しくなる。

→受け入れ会社に送り迎えを頼むしかないのではないのか。であれば、姫路市内の会社となる。

→学校の近くで受け入れるところを色々当たってはいるが、見つければ良い。

→技能実習があるため、参加する学生は道具も学校に持って帰らなければならない。

→現在のところ遠方が多く、交通手段は今後大きな課題となる。

・大工は週1回で15週間に亘ることをお願いしているが、左官は1週間の連続であった。受け入れ側としてはどちらがよいのか。

→まとめてする方が良い。普通は1週間経つと現場が動いているため、1週間後は全く違うことを教えることとなる。

1週間連続で実習をし、次の1週間は実習を休むといった隔週毎に連続してする実習は良いが、週1回来て毎回違うことを教えていくのはかなりの労力になる。

→授業の運用上は詰めて連続するのは難しくなる。左官のように春休みや夏休みとなる。

→長い期間、飛び飛びで来られると学生に体験させることが無くなり、掃除程度になることが多くなると思う。これでは学生にとって実習に参加した意味がなくなる。

→この点は検討していく必要がある。 等

議題等

(3)学生アンケート結果(左官実習)

企業内実習アンケート(学生用)が読み上げられ、以下の意見交換が行われた。

- ・3-(6)の回答では「礼儀や挨拶・マナーの大切さ」に対して全員が大切であると感じているのであれば、次の3-(7)の「日常生活においても礼儀や挨拶・マナーなどに気をつける」も全員気をつけるようになったと回答するべきところできていないのが残念な点である。
- ・左官の企業内実習はどのような内容のものであったのか。
 - 野丁場(マンション現場)壁の補修とお寺の改修で漆喰の塗りなどを体験させてもらった。
 - 就職先は野丁場(マンション現場)が多いのか。
 - 9割程度は野丁場(マンション現場)である。現実として町場のものは少ないということをして学生は学べたと思う。
学校のカリキュラムとしては、大きな面積を短時間で塗ることは教えていないので、5-①「学校で塗りつけの練習をさせてほしい」という声が出てきたと思う。職人を見て経験して積み上げたことに凄さを感じたと思う。
 - 職人になって経験していくことと、学校で教えることは異なる部分もあるため、学校のカリキュラムは変更しなくても良いと思う。
- ・左官の企業内実習は、どうして期間が1週間なのか。
 - 夏休み期間で企業内実習をしてはどうかという提案があり、1週間で実施した。
 - 学生のアルバイトの状況も考慮した上で1週間とした。
 - 1週間という期間であれば大工は色々教えることができるが、人数によって教える内容が異なってしまうため、大人数は避けてほしい。しかし、今回の企業内実習は若い職人を育てるきっかけづくりとなっている。
 - 大人数になると仕事の段取りが変わるので避けてほしいという理由は理解できる。
このデュアルという企業内実習の取組みで学校側と受け入れ企業側にとって何かプラスとなれば良いと思っている。 等

4. 事務連絡

- ・1月15日に推進委員会会議を開催。

議題等

【会議風景】



本日はお忙しい中ありがとうございました。引き続き、よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。